下部消化管内視鏡検査に関する説明と同意書

患者氏名　　様　　（ＩＤ：　　）

【目的・方法】

大腸の疾患を診断するための検査です。 肛門から大腸に直接内視鏡を挿入し、空気で膨らませながら観察します。大腸内をきれいにするため、前日より準備を行います。必要に応じて粘膜組織の採取や色素撒布を行います。また、必要に応じてポリープ切除を行います。（抗血栓薬内服中の場合や、ポリープの大きさ・数によっては入院可能な施設へご紹介することがあります。）検査時に病変からの出血や異物がみられた場合には、医師の判断により、止血術などの処置を行うことがあります。

検査中の疼痛や、合併症が起こった場合は、検査を中止することもあります。

麻酔薬やヨードアレルギーのある方は事前にお申し出ください。

【合併症（併発症）】

すべての医療行為にはリスクがあり、ある一定の確率で合併症が起こります。 本検査においても下記の合併症が報告されています（過去５年間の消化器内視鏡学会全国調査)。ただし、下部消化管内視鏡検診による癌の発見率は一般に３～４％と言われており、病気の怖さを考えれば、検査を受けるメリットの方がはるかに大きいと言えます。

① 内視鏡による消化管粘膜の出血・穿孔 発生頻度：0.012%(8 千人に１件)

② 前処置・検査に伴うショック（血圧低下等)、アレルギー等 発生頻度：0.004%(2 万 5 千人に１件)

合併症が起きた場合は、適切に対応いたしますが、入院が必要と判断した場合は、入院施設への転送手配を行います。その際の診療も通常の保険診療で行われます。

【臨床研究検体】

内視鏡検査の情報、血液や組織等の臨床検体を匿名で臨床研究に供する可能性があります。

以上の説明を読み、大腸内視鏡検査の目的と方法・危険性について記載事項を十分理解いたしました。
下記の項目に〇を付けて署名をしてください。

同意します　　・　　同意しません

年　　月　　日

患者もしくは代理人署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ひらいで消化器・内視鏡クリニック
平出　貴乗